

## 政務活動報告書

活動事項	中国横断自動車道岡山米子線4車線化促進 NEXCO・国交省 要望活動
活動年月日	令和元年11月11日
場所	中国整備局 NEXCO西日本中国支社
活動の相手方	小笠支社長、京極副支社長、久米副支社長、桑野部長
目的・内容 ・結果等	<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中国横断自動車道岡山米子線全線の4車線化の早期実現について</li> <li>・要望書の提出</li> </ul> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中国整備局 <ul style="list-style-type: none"> <li>・蒜山ICから米子IC間の暫定2車線区間が優先整備区間に選定された事へのお礼と早期実現に向けた働きかけ。</li> <li>・江府IC及び溝口IC付近の付加車線整備の早期供用。</li> </ul> </li> <li>2. NEXCO西日本中国支社 <ul style="list-style-type: none"> <li>・現状未整備の2車線道路がもたらす問題認識の共有とNEXCO西日本中国支社の方針について。</li> </ul> </li> </ol> <p><b>【結果(成果)等】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中国整備局 <ul style="list-style-type: none"> <li>・国は、国土強靭化計画に沿って、全国の高速道路の4車線化について880kmを優先区間として指定した。このうち、様々な観点から岡山・米子道の4車線化については優先的に取り組むべき路線であると選定された。</li> <li>・工事完了は10年～15年後を目指すが、令和3年までには、安全性をより高めるために、暫定2車線箇所の中央分離帯にはワイヤーロープを敷設することである。</li> <li>・以上のことから、今後の事業については、よりスピード感を持って取り組んでいくとの言葉を頂いた。</li> </ul> </li> </ol>

2. NEXCO 西日本中国支社

- ・「高速道路における安全安心計画」において、暫定 2 車線区間の優先区間に選定された蒜山 IC～米子 IC 間について、重大事故の多発性や自然災害による通行止め、時期によって起こる渋滞、また迂回路の危険性、脆弱性など、様々な問題点について意見交換し、改めて 4 車線化の早期実現、必要性について共通した認識を確認することが出来た。また、今後も引き続き互いに協調しながら、国に対して要望活動を続ける事を改めて確認した。

関連領収書番号

318

政務活動報告書

活動事項	中国横断自動車道岡山米子線4車線化総決起大会
活動年月日	令和元年11月12日
場所	衆議院第1会館
活動の相手方	青木国土交通副大臣、佐藤道路調査会会长代行他、地元選出国会議員、池田道路局長他国土交通省職員、西日本高速道路（株）村尾取締役執行役員他小笠常務執行役員、日本高速道路保有・債務返済機構加藤理事、全国高速道路建設協議会日高事務局長代行
目的・内容 ・結果等	<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中国横断自動車道岡山米子線4車線化総決起大会への参加</li> <li>・要望書の提出</li> </ul> <p><b>【内容】</b></p> <p>中国横断自動車道岡山米子線4車線化促進鳥取県議会議員連盟の一員として、また境港管理組合議長として決起大会に参加し、以下の通り国に要望した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本年9月に策定された「高速道路における安全安心基本計画」において優先整備区間に選定された蒜山IC～米子IC間の早期事業化により、4車線化を実現を図ること。</li> <li>2. 江府IC付近の付加車線整備の早期供用を図ること。</li> </ol> <p><b>【結果（成果）等】</b></p> <p>今年も同決起大会に参加し、4車線化の必要性について国に対して訴えた。</p> <p>今回の大会では、竹口大山町長と境港海陸運送西村社長が安全性や定時制、事業効果など、その必要性について発表された。</p> <p>さらには、米子・境港間の高速化についても早期の事業化を図るよう要望した。</p> <p>今後についても、こうした活動を通して、事業化促進に向けてさらに訴えていくべきである。</p>
関連領収書番号	318

政務活動報告書

活動事項	「令和元年度とつとり経済セミナーin関西」への参加 岡田浦漁業協同組合の取り組み
活動年月日	令和2年2月5日～ 令和2年2月6日
場所	1. 帝国ホテル大阪 2. 岡田浦漁業協同組合
活動の相手方	1. 平井知事、ips 細胞研究所 戸口田教授、他関西進出・関係企業、旅行関係、県関係団体等 2. 佐野代表理事組合長、東青年部部長、泉南市浜口観光課主幹他
目的・内容 ・結果等	<p>【目的】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 令和元年度とつとり経済セミナーin関西           <ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥取県大阪事務所の取り組み</li> <li>・鳥取県ゆかりの企業、観光業者等への鳥取県の取り組みと県立地企業への支援策等のアピール。</li> <li>・交流会への参加</li> </ul> </li> <li>2. 岡田浦漁業協同組合           <ul style="list-style-type: none"> <li>・「泉南あなご」養殖プロジェクトの取り組みについて</li> </ul> </li> </ol> <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.           <ul style="list-style-type: none"> <li>・京都大学ウイルス・再生医学研究所 組織再生応用分野 教授戸口田淳也氏 講演「iPS細胞の医療応用：現況と展望」</li> <li>・鳥取県内関係機関の取組紹介               <ul style="list-style-type: none"> <li>鳥取県産業技術センター、鳥取県産業振興機構、鳥取大学、公立鳥取環境大学、鳥取県商工労働部</li> <li>・第2部 交流会3階「エンパイア」]               鳥取県の食材や特産品を用いたメニューを味わいながら、参加企業との懇談、マッチングの場とする。</li> <li>(3) 展示・情報発信ブース [午後4時から7時まで 3階 セミナー・交流会場前室]               出席企業情報、鳥取県の観光情報・移住促進・ふるさと納税等に係る情報の発信・PRを行う。</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>2.           <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設整備や進捗状況、事業の成果や課題等について</li> </ul> </li> </ol>

## 【結果（成果）等】

1.

- ・地元米子市出身の戸口田先生の講演は、ips 細胞という最先端医療の先端を行く研究として興味深く、またわかりやすく講演を聞くことが出来た。何よりも著名な山中教授とともに5部門のうちの増殖分化機構研究部門の部門長として研究されていることを、大変誇らしく思った。今後のご活躍はもとより、地元での講演もぜひ実現して頂きたいと思う。
- ・今回で2度目のセミナーへの参加であったが、交流会では今回も地元境港市の甲陽ケミカル（株）の赫社長と同席になり、県の取り組みや同社の状況など興味深く話を伺うことが出来た。
- ・毎年開催されている交流会だが、今回も約150社もの関係者が一堂に会して情報交換の場として、またPRの場として大いに活用して頂き、事業発展の一助となるような場にして頂きたい。

2.

- ・漁場の環境変化に伴って、平成16年には140トンの水揚げがあったアナゴが激減し、平成29年にはわずか3トンしか採れなかった。こうしたことを受け、平成27年度に地方創生事業採択を受け、水産資源再生事業として、アナゴの保全と再生を図り水産業を活性化するために養殖事業に着手することとなった。
- ・はじめに興味を引いたのは、この事業に近畿大学と連携していることであり、まさに产学官それぞれの連携がいかに機能しているかということであった。近畿大学の指導により、餌に油を混入することにより幼魚（のれそれ）から成魚へと比較的安定した養殖が行えるようになったとのこと。
- ・現状の10000匹から2年後には20000匹に増産しなければ、採算ベースには至らないとのこと。事業効率を上げるためにには、成魚となるまでの生存率を高めていく必要がある。現在は5~60%と非常に低い水準となっている。この数字を7~80%にまで引き上げる必要がある。
- ・現在は大阪湾で捕獲される幼魚を岡田浦で4000匹、近大（富山）で3000匹を養殖しリスクの分散を図っているとのこと。国からの補助が最終年度となる令和2年度は勝負の年と言われていた。
- ・本県の養殖の取り組みは多岐にわたってはいるが、実績を残しているのは弓浜水産のギンザケ、マサバの養殖が中心となっている。JR西日本の「おじょうサバ」林養魚場のギンザケなど今後の成果に大

	いに期待するところであるが、安定した養殖とブランド化の取り組みは官民が結束して取り組んでいかなくてはならない。養殖は、新しい水産業の取り組みとして雇用の創出も期待できる。今後も鳥取県の養殖事業発展のために様々な提案を行っていきたい。
関連領収書番号	202~207

## 【政務活動報告書（県内）】